

With コロナの時代に博物館体験の質を どう確保するか

～琵琶湖博物館での取り組み～

滋賀県立琵琶湖博物館 主任学芸員 芦谷美奈子

1. はじめに～グランドオープンを控えていた琵琶湖博物館～

2020年2月からの新型コロナウイルスの感染拡大により、琵琶湖博物館は2020年2月28日より臨時休館することとなり、その後の再開館は同年6月2日からであった。再開館後の博物館の利用については、他の博物館や科学館、美術館などと同様に、館としての基準を設けて様々な利用制限を実施しながらの運営を目指したが、基本的な方針は「感染防止対策を入念に行い、可能な限り展示を公開し続ける」ことであり、これは現在も継続中である。

この方針をとることになった最大の理由は、本来2020年7月に予定していた「グランドオープン」であった。琵琶湖博物館では、開館20周年を迎える2016年を目指したりニューアルの一環として、2014年度から具体的な準備作業を進めてきた（ビジョンと基本計画策定、展示の実質的な準備はさらに前から）。2016年には第1期としてC（環境）展示室と水族展示を公開、2018年には第2期として一部展示室（ディスカバリールーム、おとなのディスカバリー）、屋外施設（樹冠トレイル）、交流空間（レストラン、ショップ）の公開を行った。そして、2020年7月に第3期のA（地学）展示室、B（歴史考古）展示室を公開することで、リニューアルが完成して「グランドオープン」を迎える予定であったが、コロナ休館とそれに伴う展示工事の遅れなどのために10月に延期された。

With コロナの時代、博物館活動の継続性および博物館体験の質の確保のためには、それぞれ様々な手段の検討が必要であり、現実として多くの施設で展示の制限、各種事業（展示、教育など）のオンラインへの移行などが検討・実践されてきている。そのような中で、琵琶湖博物館では、とにかくグランドオープンまではコロナ対策をしながら物理的な展示空間をどう運営するかに注力する方針をとり、それ以外の博物館活動（特に交流事業）は縮小あるいは一時停止、中止することとなった。今回は、この条件の下、博物館体験の質を確保するために取り組んできた対策について報告する。

2. 休館期間中の準備と対応

1) 展示交流員の研修

休館期間中に新年度になり、再開館がいつになるか不明な中、通常通り4月から展示交流員の業務委託契約があったため、休館中は展示交流員の研修期間とした。「展示交流補助ツール」の企画、開発と試行を実施した。

2) 「おうちミュージアム」での学習素材の提供

琵琶湖博物館では、北海道博物館が提唱した「おうちミュージアム」に賛同し、ウェブページ上で様々な学習素材の公開と提供を実施した。

3) 再開館に向けての各種検討

再開館できるように、来館者への対応方法、展示室での展示の取扱などについて検討を行った。

4) グランドオープンに向けて

グランドオープンおよび企画展の開催が、2020年7月から10月に延期され、その公開に向けての作業は休館中も引き続き行った。

3. 琵琶湖博物館でのコロナ感染拡大防止の対策

琵琶湖博物館では、主に次のような対策を実施した。

1) 入館者人数制限（後にウェブ予約システムの導入）

コロナ対策の方法が一般的に論じられるようになった際、「密」を避ける距離として2メートルの間隔を確保することが必要とされた。琵琶湖博物館では、再開館にあたって公開する展示室およびアトリウムなどの面積を検討した結果、当初は一時的な館内滞在者の上限を400人、1日合計1,200人として入館制限を実施した。その後は、利用できる床面積の増減や、滋賀県での感染状況を検討しながら、人数を再設定して対応している。

制限方法としては、エントランスで来館者の出入りをカウントし、上限に達しそうになると入館を停止して調整を行った。その後は、利用可能な床面積が増大した際には上限を増やすなど、状況に応じて運用を行った。この方法では、上限を超えた来館者を待たせる機会が増え、また出入り管理に複数の人員配置が必要になるため、グランドオープンに合わせてウェブ上での予約システムを導入し、現在も運用中である。

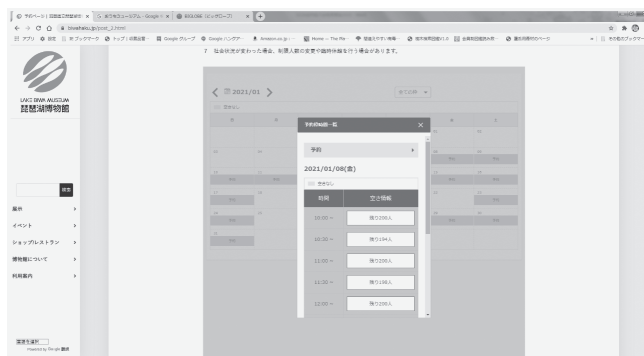


図1. 琵琶湖博物館の予約システム画面

2) 一部展示室および展示物の閉鎖・撤去

前述のとおり、常設展示室の公開を続けることを前提として、各種コロナ対策を実施することとなった。常設展示室では、C展示室および水族展示室は工夫をして公開を継続（「ふれあい体験室」「マイクロアクアリウム」など部分閉鎖）し、「ディスカバリールーム」および「おとなのディスカバリールーム」などハンズオン展示を多用する展示室については、再開館当初は閉鎖し、様々な条件を設けて再開に向けて工夫を行った。



図2. 休止中の匂い展示

展示物については、関わり方によって、1) 目鼻口を使って体験する展示、2) 手で触るあるいは体で体験する展示、3) 見る展示 と分類した。1) に関しては、With コロナの状況では最も感染に直結する展示物として、原則閉鎖した。2) の手や体の一部を使って体験する展示（展示物）では、さらに ①アルコール等で消毒清掃が可能なもの、②アルコール等で消毒清掃ができないもの（形状および材質）に分け、①は一定の割合で消毒を実施する条件で引き続き公開、②は閉鎖あるいは撤去を行った。

再開館した後、館内の状況を踏まえ、「おとなのディスカバリー」「ディスカバリールーム」も運用方法の見直しを行い、条件付で他展示室より遅れて再開した。「おとなのディスカバリー」では、人数制限を設け、一部展示を撤去して再開し、消毒清掃の頻度を多くした。当初は平日のみであったが、「質問コーナー」が併設されていることもあり、現在は土日も開けている。「ディスカバリールーム」では、一部展示の閉鎖と撤去を実施し、人数制限を設けた上でさらに時間制を採用、利用の合間に消毒清掃の時間を設定するなどして、再公開した。2020年末時点でも、当初から継続して平日のみの開室となっている。

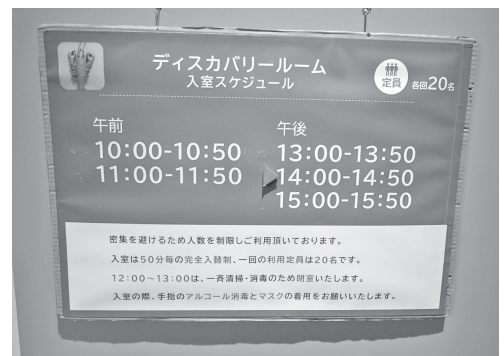


図3. 時間制になったディスカバリールーム
(平日のみ開室)

3) 資源（マンパワー、物品）の確保と再配置

常設展示室の大部分を公開する前提では、手指の消毒等に用いるアルコールおよび洗剤などの確保と配置の検討、そして展示物や展示室の設備の消毒を実施する人員の確保と再構成が必要であった。来館者の「密」を避けるため、あるいは展示の使用方法などを見守るため、以前は展示交流員のポストがなかった場所にも配置し、巡回および消毒清掃を実施した。

4) 展示空間の維持管理以外の対応

展示と入館者に関わる項目以外では、次のとおりであった。交流事業については、各種行事は2020年8月まですべて中止し、9月から担当者の判断で一部実施された。オンラインへの移行は、学芸員が個人的に管理できる一部研究会などに限定され、琵琶湖博物館全体ではまだ実施できていない。また、一時的に学校団体の受入も中止（10月からは制限をつけ

て復活) するなど、物理的に博物館を利用する人員の管理と制御を重視した。

資料活用事業に関しては、従来から資料保管のために人の出入りを制限していたため、若干厳しく収蔵庫への出入り管理をする程度となった。

4. 今後の課題

冒頭に書いたように、琵琶湖博物館では2020年10月にグランドオープンを迎え、10年ほどに渡るリニューアルが完成した。さらに、今年2021年は開館25周年を迎える節目の年である。それに合わせて、現在新しい中長期計画を策定中でもある。その上に、Withコロナの対策を前提とした未来を描かなければならない。博物館としての課題は多々ある中で、発表者は、Withコロナに関しては、特に次のようなことを意識して取り組むべきと考えている。

1) 博物館体験の「質」と「内容」の向上を目指す

2020年6月の再開館から現在に至るまで、琵琶湖博物館でのコロナ対策は比較的来館者と展示室を重視した対策を実施してきた。遅ればせながら、今後は展示事業に関しても、物理的な展示室だけでの博物館体験ではなく、オンラインやウェブを利用した方法を模索していくべきであろう。交流事業についても、公式に館の行事をオンラインで開催する準備はまだできていない。個人の力量にただ頼るのではなく、組織として取り組むべき課題であり、技術的な面はもちろん、人材の育成なども必要になると考えられる。

2) 県立の直営館としての限界と可能性

今回コロナ対策に取り組む中で、オンラインの研究会や意見交換の中で、他の施設の先進的な取り組みを知る機会が大変多くなり有難かった。様々な事例を見聞きしているうちに、県立の直営館という恵まれた立場であることが、制度と組織の縦割りなどが若干邪魔になり、新しい事業を実施する際の機動力の弱さに繋がることが実感されることが多々あった。

例えば、国立の施設などでは、すでに普及のための部署を設置済みで、その中で各種オンライン事業を展開している事例が複数あった。また市町立など比較的規模の小さな施設では、館員の創意工夫で様々な新規事業を実施している例や、私立の施設ではクラウドファンディングなども併用して事業の幅を広げている例もあった。

琵琶湖博物館でも、新年度に新しい視点でWithコロナに取り組める体制になれば、中長期計画を踏まえての新規軸に向かえるのだと考えている。それは、琵琶湖博物館で開館当初から提示していた「樹木図」の発展したものであろうし、県立の地方博物館としての役割をもっと強く意識した内容にしていくべきと考えている。



図4. リニューアル後のA(地学)展示室